

この給排気グリルは三菱小口径ダクトシステムの給排気口に据付けて使用するものです。

■据付けを始める前に、この説明書をよくお読みになり正しく安全に据付けてください。

■据付けは販売店・工事店様が実施してください。

据付け終了後は、必ずこの説明書をお客様にお渡しください。

小口径ダクトシステム部材
給排気グリル（2方向吹出し）

形名

P-05GLD

P-05GLD-BE

据付・取扱説明書

ご使用前にこの説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。



なお、お読みになった後は、お使いになるかたがいつでも見られるところに保管してください。

この製品は日本国内用ですので日本国外では使用できず、またアフターサービスもできません。

This appliance is designed for use in Japan only and can not be used in any other country. No servicing is available outside of Japan.

安全のために必ず守ること

●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で説明しています。

 指示に従い 必ず行う	 注意	誤った取扱いをしたときに軽傷または家屋・家財などの物的損害に結びつくもの
	<ul style="list-style-type: none"> ●据付けは十分強度のあるところを選んで確実にを行う（落下によるけがの原因） ●グリルの据付けは確実にを行う（落下によるけがの原因） ●据付けやお手入れの際は、手袋を着用する（けがの原因） 	

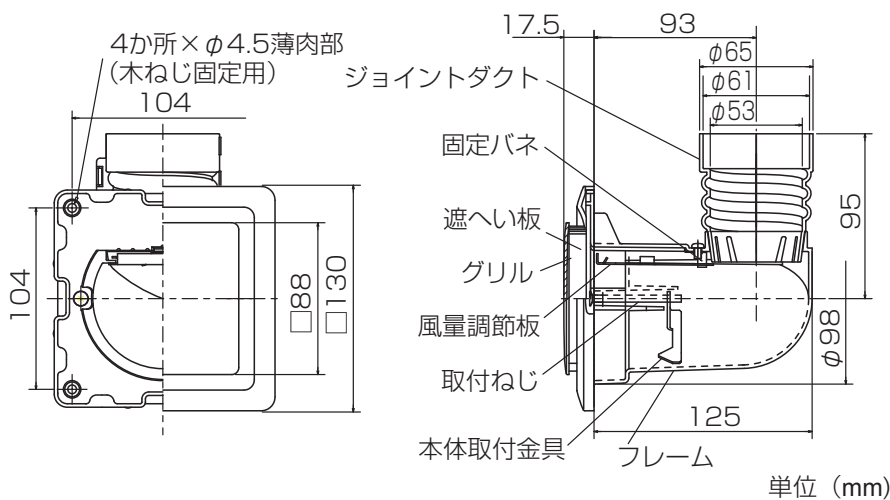
据付け前のお願い

- このグリルは、吹出し温度が周囲の空気露点温度より3℃以上下回るとフレーム、ジョイントダクトの表面に結露が発生します。結露が発生する条件で使用する場合は、フレームとジョイントダクト部を市販の断熱材で断熱ダクトと同等の断熱をしてください。
- ロスナイセントラル換気システムの室内側給気口として使用する場合
ロスナイ換気ユニットの温度交換効率から吹出し温度を算出し、【周囲露点温度-3℃】より高くなることを確認してください。
室内吹出し温度の求め方
 - 冬期（暖房時）
室内吹出し温度 = (室内温度(℃) - 外気温度(℃)) × 温度交換効率 + 外気温度
【例】室内温度20℃ 外気温度-10℃ 温度交換効率70%の場合
室内吹出し温度 = (20℃ - (-10℃)) × 0.70 + (-10℃) = 21 - 10 = 11℃
室内温度20℃、室内湿度60%RH（露点温度12℃）の場合、室内吹出し温度11℃は【露点温度-3℃=9℃】より高いため使用可能となります。
- 熱交換せずに直接外気を給気するグリルとして使用する場合
冬期に結露が発生するおそれがあります。フレームとジョイントダクト部を市販の断熱材で断熱ダクトと同等の断熱をしてください。給気温度が-5℃を下回り、かつ室内温度20℃、室内湿度50%RH（露点温度9.3℃）の環境下では本体から結露水が滴下することがあり、使用できません。
- 付属の取付金具（天井を挟み込む方法）で据付けをする場合、天井板の厚みは5～25mmとしてください。

据付け前のお願い つづき

- 高温(40℃以上)になる場所・浴室など湿度が高い場所では使用できません。
- 直接炎があたるおそれがある場所では使用できません。
- フィルターのメンテナンスのできる場所に据付けてください。
- 火災警報器がある場合は、感知部から1.5m以上はなれた場所に据付けてください。
- 外気(冷氣)侵入や雨水浸入、虫侵入の影響のない場所を選んでください。
- 外気の取入れは燃焼ガスを吸込まない、積雪で埋もれたりしない場所を選んでください。
- 屋外(外気)の環境によっては、壁(天井)を汚すことがあります。また、小さな虫は侵入する場合がありますので、屋外側においては外灯などから離れた場所を選んで据付けてください。

各部のなまえと外形寸法図



適用パイプ

- 小口径ダクトφ50mm
(システム部材)
P-05D (断熱なし)
P-05DS (断熱あり)

据付可能場所

- 天井、壁

据付可能板厚

- 5~25mm

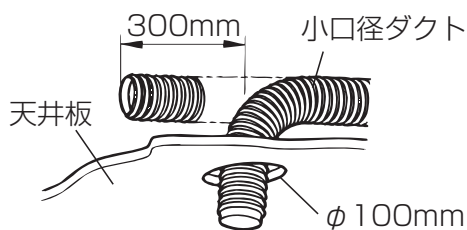
(取付金具で取付けられない場合木ねじで固定してください)

※板厚40mm以上には据付不可

据付方法

お願い 開梱時、風量調節板は全開の状態です。必要給気量に合わせて開口面積を調節して使用してください

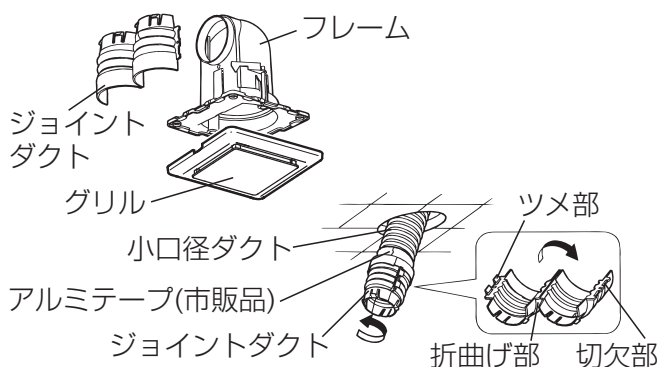
1



小口径ダクトの配管

1. 小口径ダクトを据付位置まで配管し、据付位置より300mm程長くして切断する。
2. 天井板を張り、据付位置にφ100mmの穴を開け、小口径ダクトを引き出す。

2

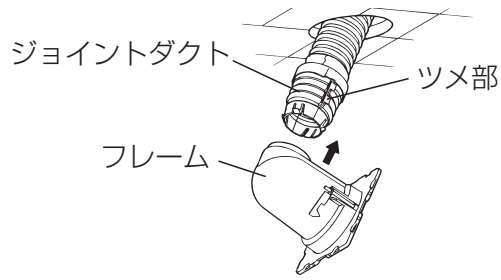


小口径ダクトの接続

1. ジョイントダクトの折曲げ部を折り曲げ、ツメ部を切欠部にはめ込む。
2. ジョイントダクトを小口径ダクトの先端にはめ込み、ジョイントダクトを図のように時計と反対方向に回し確実にねじ込む。
3. 小口径ダクトとジョイントダクトの合わせ部全周をアルミテープで風漏れのないよう確実に巻き付ける。

2

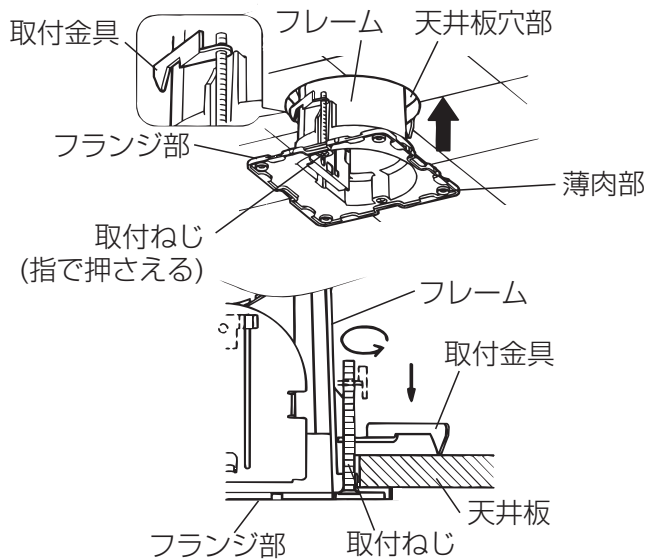
3



ジョイントダクトとフレームの接続

図のようにジョイントダクトのツメ部をフレームに対して横向きになるようにしてフレームの接続口に差し込む。

4



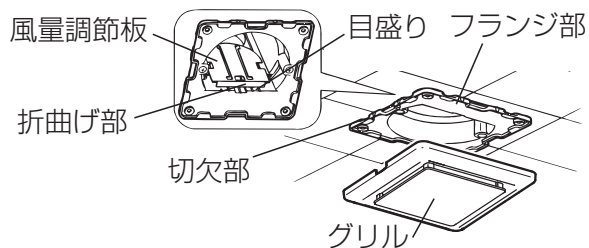
取付金具による取付け (天井板厚5~25mmの場合)

1. 取付金具を図の位置にしたままフランジ部の取付ねじを指で押さえながら、フレームを天井穴部に差し込む。
● 取付ねじが下にさがると取付金具の位置がずれて天井板穴部に差し込めなくなります。
必ず取付ねじを指で押さえてください。
2. フランジ部の取付ねじ(2本)を締め付けると図のように取付金具が下に移動し、フレームが天井板に確実に取付けられます。

木ねじによる取付け (天井板厚25~40mmの場合)

- フランジ部の薄肉部(4か所)を市販の木ねじ(4本)にて締め付け固定する。
- 石こうボードに固定する場合は、必ず市販の石こうボード用アンカーを使用して取付けてください。

5



グリルの据付け

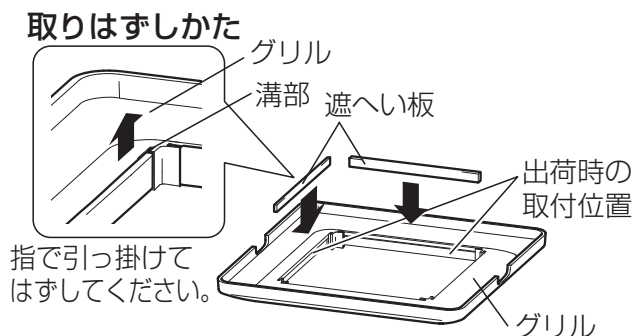
グリルをお好みの風方向に合わせ、グリルの手掛部をフランジ部の切欠部に合わせてはめ込む。

風量の調節

- 開梱時、風量調節板は全開の状態です。
フレームの内側の目盛りを目安に、手またはラジオペンチ等で風量調節板を移動させ折曲げ部の位置で開口面積を決めます。

吹出し方向の選択

- グリルの取付方向は90° または180° とすることで吹出方向を選ぶことができます。
- グリルの遮へい板の取付方向を変えることで吹出し方向の選択ができます。
- 遮へい板着脱はグリルの溝部にはめ込みます。(強く折曲げないようにしてください)



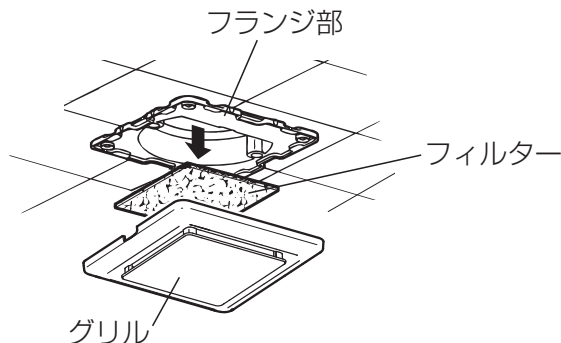
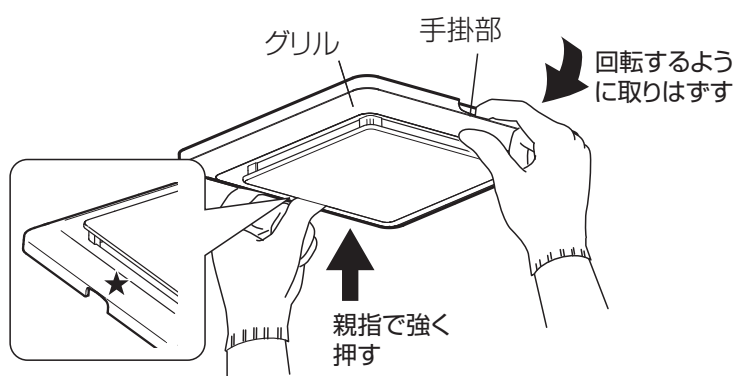
お手入れ

グリル吸込口やフィルターにほこりなどが付着しますと風量低下や異常音発生の原因になります。約3か月に1度を目安として清掃してください。製品の吹出し方向の機能上、壁を汚す場合がありますので、壁の清掃も同時に行うことをおすすめします。

■お手入れの際には足元が不安定な状態でグリルの脱着を行わないでください。

⚠ 注意

- お手入れの際は必ず接続されている換気扇の運転を停止してから行う（けがの原因）
- グリルの据付けは確実に行う（落下によるけがの原因）
- お手入れの際は、手袋を着用する（けがの原因）
- グリルの据付け・取りはずしは両手を使いますので、転倒しないよう安定した姿勢で作業してください



1. グリルをはずす。

- ①左図の★印位置（製品には表示していません）を左手親指で強く押します。
- ②左手で押しながら反対側の手掛部に右手人差し指を掛け、右手親指をグリル表面にあてがい、つまんだ状態で矢印のように回転させながら下側に引きます。

2. グリルからフィルターを取りはずす。

3. フィルターの清掃をする。

- 軽く手でたたかまたは掃除機でほこりを吸い取る。汚れのひどい場合は、水またはぬるま湯(40℃以下)に中性洗剤を溶かしてすすぎ洗いをし、よく乾かす。

お願い

- もみ洗いは絶対におやめください。
 - 熱湯で洗ったり、直接火にあてて乾かしたり、ドライヤーなどで温風をあてて乾かすことは絶対にしないでください。
4. グリルの清掃をする。
 - ぬるま湯(40℃以下)に浸した布をかたくしぼってふく。汚れのひどい場合は、薄めた中性洗剤を浸した布で汚れをふき取り洗剤が残らないよう乾いた布でよくふき取る。
 5. フィルターをグリルとフランジ部の間にはさんで、グリルを元通り取付ける。

お願い

- フィルターを入れ忘れると壁や天井が汚れる原因になりますので、フィルターを入れ忘れないようにしてください。
- お手入れに下記の溶剤・洗剤を使用しないでください。
シンナー、アルコール、ベンジン、ガソリン、灯油、スプレー、アルカリ溶剤、化学ぞうきんの薬剤、クレンザー等けんま材入の洗剤（変質・変色する原因になります）

三菱電機株式会社

中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒場町1番3号

この説明書は、再生紙を使用しています。